戦争のシカタ。

恋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
戦争のシカタ。

【Ｎコード】
Ｎ０２７７Ｙ

【作者名】
恋

【あらすじ】
同じ学年で隣のクラスの瀬尾涼に恋をしているいたって普通の女子高生　白石瀬奈。
だがある日交通事故にあってしまう。そして目覚めた場所は戦争後の町。
そこにはセナと同じようにわけも分からず集められた7人。
その中で同じ１６歳の宗行陽と2人で敵へと立ち向かって行く。
私たちが戦わなければいけない理由とはなにか？

この7人が集められた訳とは？

そして惹かれあっていくヨウとセナの未来は！？

すべてが分かる予想外のラストが。

１６歳の戦争が今　始まる。

プロローグ（前書き）

プロローグ

「今日こそ告る！　絶対告る！」

「いや～セナは今日こそ！からが長いからなー」

「そうそう。どーせ今日も　あー！やっぱ告白なんて無理！　とかいって逃げるんでしょー？」

「・・・・・絶対告白するもんっ！」

同時にチャイムがなった。

朝のホームルーム前のおしゃべり。
うちらにとってはとても大切な時間だ。
瀬奈・瑞希・雛が一般的に言う「仲良しグループ」だった。
うちらは「いつめん」と呼んでいた。

―確かにミズキやヒナの言うことは正しい。
ここ1週間　毎日ほど「告白する！」と宣言していた。
だが毎日「やっぱ無理ー！恥ずかしいっ！」と逃げていた。
もちろん　はじめはミズキもヒナも告白する！と聞いた時は一緒に喜んで協力する！と言ってくれた。
でももうあの有様だ。

そして　その相手というのが・・・・
セナと同じ高校1年で隣のクラスの瀬尾涼だ。
女子にも男子にもモテていて　サッカーが得意な爽やか少年というところか。
だからセナのような仔は数え切れないほどいる。
誰がリョウに告白しようが「好きな人がいるから」とリョウは断る。
その「好きな人」というのはまだ誰も知らないらしいが。
セナもその中の1人というところ。
その「好きな人」はもしかして自分じゃないかって。

セナだって・・・そう期待している。

でも期待すらできない状況になってしまったら・・・？

普通に恋をして普通の女子高生としてセナがすごせるのはこの日が最後だった。

今日こそ告る！・・・でも明日がこないなんて。

夜の商店街はかなり寒かった。

セナの肌に冷たい１０月の風があたる。

兄のレンに買い物を頼まれたセナは商店街の中を自転車でとばして走っていた。

もう夜の９時だというのに商店街のなかは騒がしかった。

近くのコンビニの前にたまっているヤクザもいれば、男女何人かの集団がきゃっきゃとはしゃぎながら前を通りすがる。

セナにとっては　もう大人の時間だ　子供は帰れ　という感じだった。

兄に頼まれた卵やら牛乳やらを買ってセナは商店街から抜けていった。

この商店街も何回来たら気がすむんだ、というほど訪れている。
セナの家の1番近くにスーパーや雑貨屋があるのがこの商店街というのもあるが。

なんとなく、セナが「買い物係」というのが白石家では定着していた。

セナは兄と2人暮らしをしている。

だから兄は「料理係」というところだろうか。

父は借金地獄で首をつり自殺。

母は病気で亡くなった。

父が自殺してからは、家のことも外のことも全て母が1人でしてくれていた。

そしていつもレンとセナに「お母さんが2人を守るから」と毎日泣きそうな顔でそう言ってくれた。

今、思い返しても母親が私たちにくれた愛情は十分すぎるほど切なくて残酷なものだった。

でもそんな母親も睡眠時間をけずり仕事、仕事の毎日だったため自分の体が限界を達し　父が自殺した2年後　病気で亡くなった。

今は兄が学校に行かずに働いている。
もしも　今普通に兄が学生生活を送っていたら今は高校3年になり、そして今就職、就職と言っている時期だろう。

だがそんな夢も全て妹のセナにゆずった。

父親の借金は母親が半分以上も1人で返した。
その残りは、兄のレンが全て返し今はまだ普通の日常を送れている。

父親の憎さも、母親の切ない愛情も　全てレンもセナも一瞬も忘れていない。

そしてセナがレンに対する言葉では伝えたことのないありがたさも。
レンがセナに対するたった1人の家族としての大切さも一

「この信号長すぎっ！」

もうセナは家のすぐそこまで帰っていた。
でもその家の目の前の信号がものすごく長いのだ。
これには兄だってうんざりしている。

「だから早くーっ！」

セナが少し大きめの声でいったあとすぐに信号は青に変わった。
「これだから嫌いなんだよねー・・・！もっと早く変わるやつにしてくんないかな・・・・・」

幸せ・・・・・。

目の前にたくさんの光がある。

・・・いや点滅している。

完全によそ見をしていた。

なぜか、その一瞬だけ本当の幸せを感じれたような気がした。

父親も居て母親だって居て。

普通の家庭に生まれて。

今までためていた悲しみと涙がその一瞬で何かと一緒になった。

見たことない・・・ここはどこ？　そう言いたい気分だった

目が覚めた・・・というより新しく生まれたという感じだった。

「んっ・・・・」

重いまぶたが少し上にあがった。

「・・・あれ？　私どうなったんだっけ・・」

目をこすりながら言った。・・・何も覚えていない。

やわらかい土の上だろうか。セナは寝そべっていた。

重い体をおきあげる。

・・・・一言で言えば「どこかで見たことのある風景」

そう思えた。

・・・そうとしか思いたくなかった。

恐る恐るセナは立ち上がり、1歩前へ足が動いた。

白い壁を触る。

「・・・ここは私の家・・？」

「なら・・・・なら！ここは交差点で、ここは信号・・・・！？なら
っ・・・商店街・・・商店街で・・・」

３６０度見渡した。

・・・涙。

溢れてくるのは涙しかなかった。

「なんで!?なんでなにもかもなくなってるの・・・?」

まるで、戦争後のセナたちの町・・・なにもなくただ焦げ臭いにおいがただよっていた。

セナの家は燃やされていた。交差点があった場所も・・・ただの何もない「広場」だった。

町の施設もセナたちの学校も全てなくなっていた。

なにもない、どこまでも続く大きな空き地だった。

「なんでっ！？・・なんで！！　家族の思い出の写真も今まで買ってたものもぜんぶっ！！」

「もうこれ以上私からなにもとらないでよっ！！！！」

意味がわからない。

現実と思えないことなど当たり前だ。

「・・・・・・・っお兄ちゃん！・・・そうだよ！お兄ちゃんっ！
！お兄ちゃんは・・・？」

なぜ急に。

タイムスリップでもしたのか。

「・・・・・・夢・・・・・でしょ？・・・・夢なんでしょ？　ねぇ！
・・・ねぇ！！！」

こんな日だって・・・太陽は燃え尽きないんだ

朝の光がセナを照りつける。

どうやら、そのまま眠ってしまったらしい。

「・・・・・？」

隣に誰かがいる。

眠っている。

金髪に近い茶髪の髪に鼻筋が綺麗にとおった顔。身長もわりと高く、がっちりした細身の体だった。

彼も横になって眠っていた。

一瞬、お兄ちゃんかと思ったセナは無性に恥ずかしくなった。

ガサッ

後ろから物音がする。セナはすぐに振り向いた。

・・・・そこにはセナと同じように訳も分からず集められた人間がいた・・・。

セナを合わせて女3人男4人の計7人がいた・・・・・・・。

◇
◆
◇
◆
◇
◆
◇
◆

「・・・ねぇっ！私たち・・・どうなったの？」

「だから・・・知らねーつってんだろ！」

眠っていた彼も目を覚まし、もちろん混乱していた。

1人　女子が泣き出してしまっている。

「ほんと　どーなっちゃうんだろうね、うちら」
もう1人の女子がいった。
「それはオレだっていーてーよ」
「このまま戻れへんかったりすんかな・・・」
「戻れるとか戻れないとかの問題じゃないだろ・・・今社会にどういう問題が起きてるんだ」
泣き声がまた大きくなった。
「まじ意味わかんねー・・・」
さっきまで横になって眠っていた男子が言った。
「あ！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0277y/

戦争のシカタ。

2011年11月3日21時05分発行